

“ふじのくに”の「文化力」を活かした 地域づくり基本構想

～東静岡から名勝日本平、三保松原に広がる地域の整備～

平成 27 年3月

東静岡周辺地区の整備に関する有識者会議

静 岡 県

目 次

序 章 東静岡から名勝日本平、さらには三保松原に広がる地域 1	1
～高い「場の力」を有する地域～	
<当地域が持つ高い「場の力」> 2	2
1 世界の宝「富士山」を仰ぎ見る最高の「場」 2	2
2 東西軸・南北軸の「交流拠点」 5	5
3 東静岡から名勝日本平、さらには三保松原に広がる「学術、文化・芸術、 スポーツ」施設の集積エリア 8	8
第 1 章 「場の力」の最大化を図る地域づくり 12	12
1 目指す姿 12	12
2 地域づくりを進める視点 12	12
(1) 日本平山頂部を地域の特別な「場」と捉え、「中心」とする視点 12	12
(2) 東静岡を「陸の玄関口」と捉える視点 13	13
(3) 三保松原を富士山の普遍的価値を証明する上で不可欠の構成資産と 捉える視点 13	13
3 地域づくりのあり方 15	15
(1) 「場の力」を高める「面」としての地域づくり 15	15
(2) 地域の特徴や独自性を打ち出した求心力の強化 22	22
(3) 県都静岡にふさわしい地域づくり 24	24
第 2 章 東静岡駅周辺のまちづくり 28	28
1 目指す姿 28	28
2 まちづくりを進める視点 28	28
(1) 当地域の「陸の玄関口」にふさわしい美しく風格あるまちづくり 28	28
(2) “ふじのくに”の新たな拠点として賑わいを生み出すまちづくり 28	28
(3) 東静岡駅南北一体の統一感あるまちづくり 28	28

3	まちづくりのあり方	29
	(1) 「文化とスポーツの殿堂」にふさわしいたたずまいの創出	29
	(2) 統一感あるデザイン、景観の形成	32

第3章	東静岡駅南口県有地に整備を見込む「文化力の拠点」のコンセプトや導入すべき機能等	36
-----	---	----

1	目指す姿	36
2	取組の視点	36
	(1) 「文化力」を通じて、世界から人々を呼び込む視点	36
	(2) 大都市にはない静岡らしさ、個性・特徴ある発想	36
	(3) あらゆる人に向けて本県の「文化力」の高さを発信する視点	36
3	コンセプト	37
4	「文化力の拠点」に導入すべき機能	37
	(1) 創造・発信	37
	(2) 学ぶ・人づくり	38
	(3) 出会い・交わる	39

[参考資料]		41
○	東静岡周辺地区の整備に関する有識者会議	41
	(1) 設置目的	41
	(2) 協議事項	41
	(3) 有識者会議委員	41
	(4) 開催経過	42
	(5) 委員の意見（まとめ）	42

序章 東静岡から名勝日本平、さらには三保松原に広がる地域

～高い「場の力」を有する地域～

日本の国土の象徴である「富士山」が平成 25 年夏、「信仰の対象と芸術の源泉」として、「世界文化遺産」に登録され、人類が共有すべき世界の宝となりました。それは正に霊峰の発する文化力のなせる賜物です。

東静岡から名勝日本平、さらには三保松原に広がる地域は、その至るところから富士山の美しい姿を仰ぎ見ることができる最高の「場」です。富士山の世界遺産登録により、これまでも増して「場の力」が高まった当地域は、気品のある富士山の姿に恥じることのない地域づくりに乗り出すべき天の時を迎えています。

また、古代東海道時代から現代に至るまで、東西を結ぶ交流を担ってきたこの地域は、中部横断自動車道の開通により、我が国を代表する東西軸・南北軸の新たな交流の結節点となることが期待されます。

さらに、当地域には、県立大学、静岡大学、グランシップ、県立美術館、県立中央図書館、舞台芸術公園、地球環境史ミュージアム、草薙総合運動場など、本県を代表する「学術、文化・芸術、スポーツ」施設が集積しており、高い「場の力」が備わっています。

この地域に集積する学術、文化・芸術、スポーツ等の魅力を更に磨き高めるとともに、我が国の交流の要衝として飛躍的に高まる「場の力」を最大限に活かし、「富士山」をはじめ、数々の世界水準の魅力を生み出してきた“ふじのくに”の文化力の高さをアピールする、「文化力の拠点」を形成していくことが重要です。



写真 1 : 東静岡から名勝日本平、さらには三保松原に広がる地域

<当地域が持つ高い「場の力」>

1 世界の宝「富士山」を仰ぎ見る最高の「場」

(1) 世界遺産富士山を仰ぐ神話・歴史・文化溢れる「日本平」

- ・日本平山頂部は、世界遺産富士山をはじめ、南アルプス、駿河湾など、360度の視界が広がります。素晴らしい景観を望むことができる日本平は、全国有数の観光地としての評価を得る日本を代表する景勝地です。
- ・とりわけ、日本平からの富士山の眺望は最大の魅力です。古より雪舟や狩野探幽等の多くの芸術家の題材とされ、また、徳富蘇峰がその眺望を絶賛し、昭和10年に4つの眺望地に石碑を建立しています。日本平こそ、全国の「富士見」ポイントの頂点に立つ存在であり、富士山を仰ぎ見る最高の「場」です。
- ・また、日本平の地名は、日本武尊（やまとたけるのみこと）が、山頂から四方を眺めたという神話から名付けられたとされています。さらに、「草薙」や「馬走」などの地名に代表されるように、日本武尊の東征に因む神話に根差した地域です。また、徳川家康が自らの墓を築かせ、国宝に指定された久能山東照宮などが存する神話・歴史・文化に彩られた「場」でもあります。



写真2：名勝日本平から望む富士山



写真3：久能山東照宮社殿（国宝）

●日本平の歴史的・文化的価値

・日本武尊（やまとたけるのみこと）の神話

日本武尊が東征の折、草薙の原で、当時支配していた豪族による野火の難にあった際、「三種の神器」である天叢雲剣（あめのむらくものつるぎ）を抜き、草を払って野火を食い止め、火打ち石で迎え火を放って豪族を倒した後、

有度山に登り四方を眺めたことから、この場所が日本平と名付けられたと言われています。

また、日本武尊が豪族を討伐した際、軍馬を休ませるため放したところ、馬は東の谷へ走りこみ、清い水が湧き、人が住むのに適している谷間を発見した。ここで馬に水を飲ませ、兵の傷を癒した後、東国へ進んだ。この古事にちなんでこの地を「馬走（まばせ）」と呼んだと伝えられています。

静岡市清水区草薙には、日本武尊を祀った草薙神社があります。建立は日本武尊没後十年の景行天皇五十三年。この年、天皇は皇子勲功の地を訪ね、社を創り、御神体に草薙の剣を奉納したと伝えられています。

・有度山（うどやま）の語源

日本平は、有度山丘陵の頂上部及びその一体の総称です。推古天皇の時代、秦川勝（はたのかわかつ）の二男尊長の弟の久能という者が、観音菩薩の霊夢を見たために有度山に住みました。そのため、秦川勝の姓によって禹都麻佐（うずまさ）山といたり、久能ともいいました。秦（うずまさ）を略して宇津といい、津は渡とは相通ずるので、「有度」となったとも伝えられています。

・久能山と富士山・日光を軸線で結ぶ（徳川家康の遺言）

「臨終となったら身体は久能へ納め、葬儀は増上寺にて申し付け、位牌は三河の大樹寺に立て、一周忌も過ぎて以後、日光山に小さな堂を建て勧請せよ、八州の鎮守となるべく」と遺言を残したといわれ、日光の位置は、久能山東照宮から富士山の頂上を結び、さらに北へ伸ばした線と、江戸城から北極星を目指し北へ伸ばした線が交わる場所です。

（２）「芸術の源泉」、「信仰の対象」の両面で富士山とつながる「三保松原」

- ・三保松原は、その美しさから日本三大松原の一つとされるとともに、「信仰の対象」と「芸術の源泉」の双方の側面から富士山の顕著な普遍的価値を証明する世界遺産の構成資産の一つです。
- ・富士山との関わりがあるとされる天女と地元漁師との交流を描いた「羽衣伝説」の舞台として著名であり、謡曲「羽衣」の舞台となっているほか、万葉集に詠われて以降、歌枕として、多くの和歌の題材となっています。
- ・特に、「羽衣の松」の付近は、海浜の松原越しに富士山の美しい姿を望む場所として知られ、歌川広重の浮世絵にも描かれています。また、羽衣の松から9世紀の創建とされる御穂神社に至るまで、「神の道」と呼ばれる松並

木が連続しており、御穂神社の神事の際には、御神木である「羽衣の松」を目印として、海から来訪する神をお迎えし、神社へと導きます。

- 富士山頂への宗教的登山が庶民に拡大した 16 世紀には、富士山に対する信仰を景観として描いた「絹本著色富士曼荼羅図」において、三保松原が配置されるようになり、当時の日本人が富士山への登拝の過程を表す重要な霊地として認識されていたことを示しています。



写真 4 : 三保松原から望む富士山



写真 5 : 歌川広重が描いた三保松原



写真 6 : 羽衣の松



写真 7 : 神の道

2 東西軸・南北軸の「交流拠点」

(1) 古代東海道遺跡（古からの東西の交流軸）

- ・グランシップの建設工事に伴う埋蔵文化財調査の結果、延長約 350m にわたって奈良時代から平安時代前期に使われた古代東海道と考えられる幅 12～13m の道路遺構が発見されました。
- ・古代の官道は、都と地方を結ぶ情報伝達路としての機能を強く持っており、出来る限り最短コースをとることを要求されているため、直線路の形態をとることが多いとされています。今回発見された道路遺構を直線に伸ばしていくと、静岡・清水地域の山塊や丘陵の張り出し部分を避けた平野部を一直線に貫くものとなっています。
- ・東静岡の地は、古の時代から都と地方との東西交流を担う交通の要衝であったことが推察されます。



写真 8 : 発見された古代東海道と考えられる道路遺構

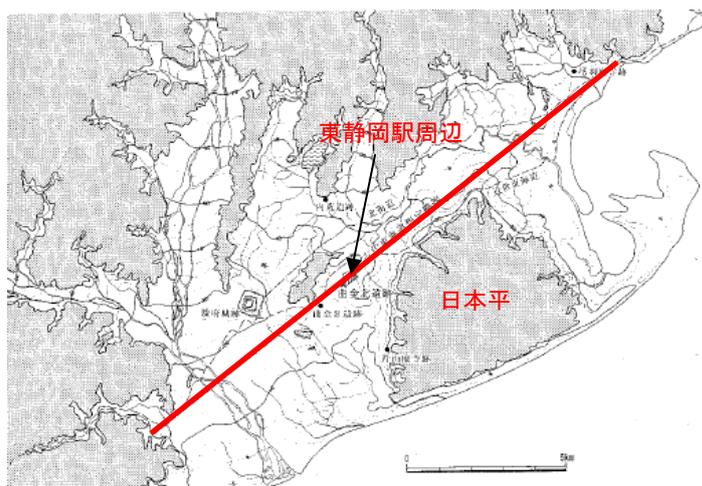


図 1 : 古代東海道想定路線図

(2) 活発な東西交流

- ・静岡県は、東京、名古屋、大阪といった大都市の間に位置し、古から東西の交通の要衝として栄えてきました。東静岡周辺は、我が国の交流と経済活動を支える東海道本線、東海道新幹線、国道1号及び東名高速道路が集中する交通の要衝です。
- ・さらに、平成21年6月の富士山静岡空港の開港、平成24年4月には新しい国土軸を形成する新東名高速道路が開通するなど、東西軸の交流を活性化する交通ネットワークの充実が図られています。今後、新東名高速道路の全線開通と、首都圏中央連絡自動車道の延伸により、北関東方面等からのアクセス性が向上するなど、広域的な東西交流のより一層の拡大が期待されます。
- ・平成39年に予定されているリニア中央新幹線（東京―名古屋間）の開業に伴い、現在の「のぞみ」がリニアにシフトすることで、東海道新幹線は「ひかり」・「こだま」を中心とした新たな運用形態が可能となります。東海道新幹線の県内駅停車本数の増加や、富士山静岡空港と直結した新幹線新駅の設定など、交流等の利便性が一層向上する好機と捉えることができます。

(3) 中部横断自動車道の開通による山梨、日本海に至る新たな交流の結節点

- ・我が国のヒト・モノの交流を支えてきた東西軸の幹線交通の体系に加え、太平洋と日本海を結ぶ南北軸の高規格幹線道路である中部横断自動車道の整備が進み、平成29年度には新東名高速道路から中央自動車道までの区間が全線開通する予定です。
- ・中部横断自動車道の開通により、山梨県との交流の活性化はもとより、静岡から日本海に至る新たな南北交流の可能性が広がります。新たなネットワークが創出されることで、東西軸・南北軸の交流の結節点となる東静岡周辺地区にヒト、モノ、情報が集積し、この地域の求心力が飛躍的に高まることが期待されます。

●東西軸・南北軸の「交流拠点」

(1) 活発な東西交流軸

- ・東名、新東名合計で約84千台/日の平均交通量
- ・平成32年度には新東名全線が開通予定
- ・首都圏中央連絡自動車道の供用区間延伸により北関東方面から静岡へのアクセスが向上し交流拡大の期待

(2) 新たな南北交流軸

- ・平成29年度には中部横断自動車道の新東名から中央自動車道までの区間が全線開通
- ・山梨・長野・日本海への交流拡大の期待



平成29年度に(仮称)東名静岡東スマートICが供用することで、東静岡地区から高速道路へのアクセス性が向上



図2：広域的な交通体系の形成

3 東静岡から名勝日本平、さらには三保松原に広がる「学術、文化・芸術、スポーツ」施設の集積エリア

(1) 数多くの高等教育機関の集積

- ・東静岡周辺から名勝日本平、三保松原に広がる地域には、県立大学や静岡大学をはじめとする多くの高等教育機関が集積し、多彩な教育、研究活動が展開される本県の「知の拠点」というべき地域です。
- ・また、当地域の高等教育機関の学生数は、約1万7千人と、県内学生数の4割以上を占め、また、県内留学生の4割以上がこの地域で学んでいます。
- ・県内の大学が特色を活かしつつ、大学間や地域との連携を深め、高等教育機関全体の教育力向上と地域への貢献を目指す「ふじのくに地域・大学コンソーシアム」が平成26年3月に設置されました。大学の垣根を越えた単位互換等に取り組むとともに、新たな地域学「ふじのくに学」の創設に向けた検討を始めています。また、今後、大学間等の連携・交流の場となる拠点の形成についても検討することとしています。
- ・さらに、平成27年度には、全国初の地球環境史の博物館として、「ふじのくに地球環境史ミュージアム」を開設し、“ふじのくに”の地域学の創造と「人」、「交流」、「連携」が導く知の拠点づくりに取り組んでいきます。

【ふじのくに地域・大学コンソーシアムの取組】

大学と地域との連携の場を提供し、そこでの取組を通じて、地域に役立つ人材の育成や地域の課題解決に取り組む。

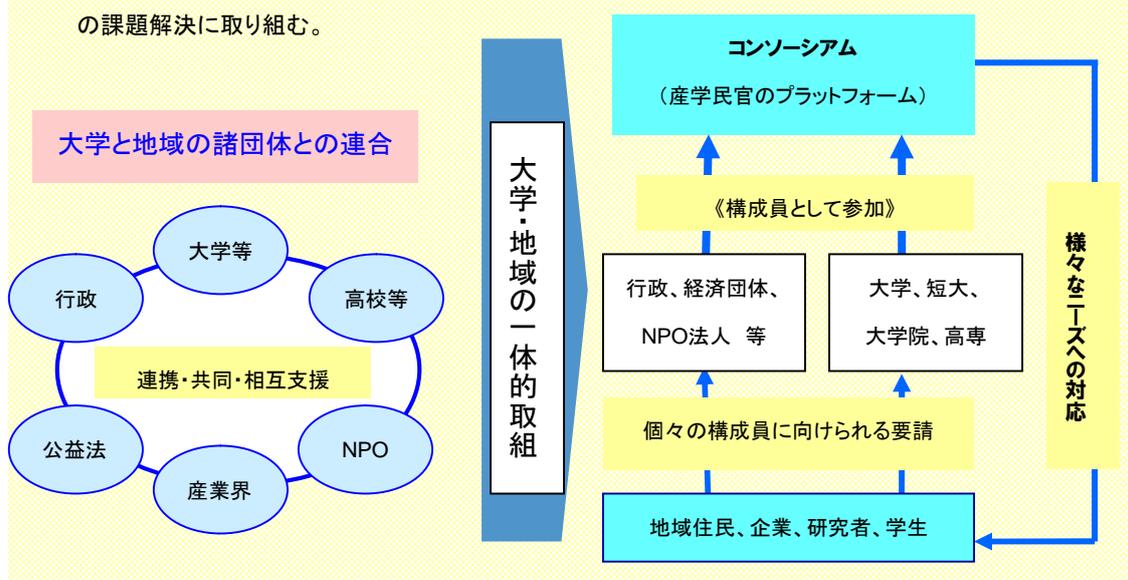


図3：ふじのくに地域・大学コンソーシアムの取組

(2) 文化・芸術、スポーツ施設の集積

- ・本県は、文化力を活かした地域づくりが県内のあらゆる地域で活発になるよう、「みる」「つくる」「ささえる」人を育てることにより、いつでもどこでも多彩な文化の花が咲き国内外から憧れられる「ふじのくに芸術回廊」の実現を目指しています。
- ・東静岡周辺から名勝日本平に広がる地域には、グランシップをはじめとして、県立美術館、県立中央図書館、舞台芸術公園、草薙総合運動場といった本県を代表する文化・芸術、スポーツ施設が集積しています。文化・芸術、スポーツに関連する県立の施設が集積し、静岡県文化財団、SPACなどの推進機関が活動するこの地域は、本県の文化力を高める「ふじのくに芸術回廊」の中核を担う地域です。

(3) 集積する様々な施設の連携した取組

- ・平成21年度から、県立大学、県立美術館、県立中央図書館、県埋蔵文化財センター、SPAC、グランシップの6機関で「ムセイオン静岡」を構成し、施設間で連携を深めることにより、個々の施設の事業効果を高めるとともに、地域全体の魅力の向上につなげる取組を進めています。施設間の相互協力による文化・芸術に関する県民講座や「ふじのくに文化の丘フェスタ」の共同開催など、県民に文化・芸術・教育を学ぶ場を提供しています。
- ・また、「日本平」周辺の公立、民間の施設(県立美術館、静岡市立日本平動物園、(株)日本平ホテル、SPAC、久能山東照宮)が、魅力の向上や交流拡大を図るため、有度山フレンドシップ協定を締結し、公立、民間の垣根を越えて、相互連携による効果的な情報発信などに取り組んでいます。

【文化関連機関の連携した取組】



有度山麓から東静岡駅
周辺の6つの文化関連機
関が自主協働プログラムと
して文化・芸術・教育を学
ぶ場を提供し、文化を発信
する活動を「ムセイオン静
岡」と称している。

主な相互協力事業

- 文化の丘フェスタの共同開催
- リベラルアーツ×ジャパノロジー講座
- 県立中央図書館の蔵書や静岡県埋蔵文化財センターの所蔵品を県立美術館において合同展示
- 文化の丘を散策する案内地図「さんさくマップ」の作成など

図4：「ムセイオン静岡」による文化関連機関の連携した取組

【公立、民間の垣根を越えた連携の取組】

有度山フレンドシップ協定

静岡県立美術館	SPAC
静岡市立日本平動物園	
(株)日本平ホテル	久能山東照宮

協定の内容

- 相互施設の広報及び情報交換
- 各施設の催事への連携及び協力
- 共同開催事業の検討
- その他、目的達成のための連携・協力

主要な活動実績

- 「ふじのくにしずおか観光大商談会」に共同参加
- 「夏休みクイズラリー 親子でロダン館を探検！」に協賛
- 結婚式でのタイアップ企画
- 県立美術館「アニマルワールド展」と日本平動物園が共同企画

図5：「有度山フレンドシップ協定」による公立、民間の垣根を越えた連携の取組

東静岡周辺地区に集積する「学術、文化・芸術、スポーツ」関連施設



【日本平周辺地区】

- ・世界遺産「富士山」をはじめ、周囲360度を眺望できる名勝日本平
- ・有度山麓に集積する学術、文化・芸術、スポーツ関連施設

【三保地区】

- ・富士山世界文化遺産構成資産としての三保松原の顕著な普遍的価値
- ・富士山の雄大な姿の全容を一望。富士山、松原、砂浜が織り成す風致景観

【東静岡駅周辺地区】

- ・日本平周辺地区、さらには三保地区へと繋がる玄関口
- ・本県を代表する「文化とスポーツの殿堂」にふさわしいたまたまいを持った拠点地区

図6：東静岡周辺地区に集積する「学術、文化・芸術、スポーツ」関連施設